

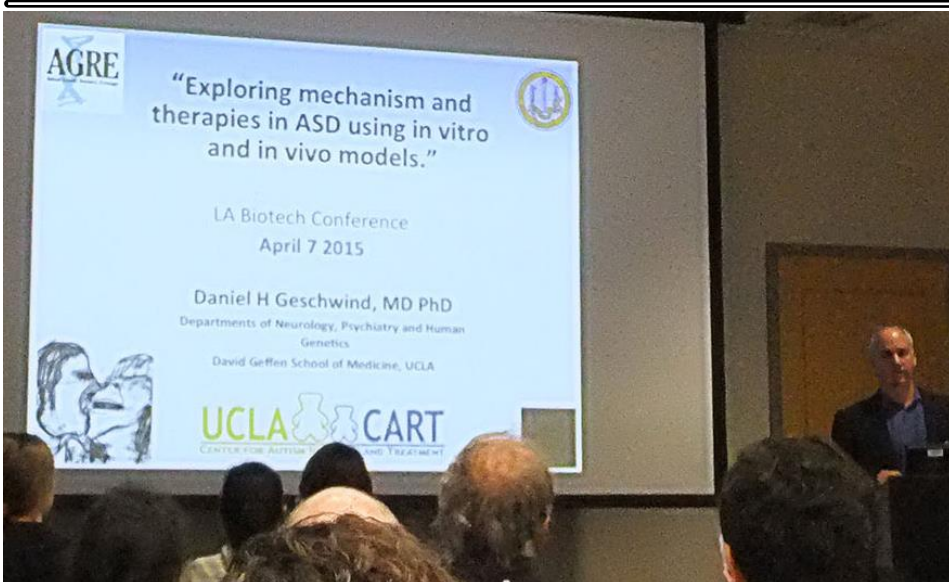
## 【派遣者近況報告】

タイトル： UCLA留学記

派遣者： 吾郷 由希夫（大阪大学大学院薬学研究科）

派遣先： カリフォルニア大学ロサンゼルス校（アメリカ）

報告日： 2015年4月7日



Biotech Connection LA  
主催のセミナー  
2015年4月7日

頭脳循環プログラムの開始から6カ月が経ちました。2013年7月から現派遣先に滞在しておりますが、本当に時の経つ早さを痛感します。Waschek研では、中枢神経疾患の病態生理基盤における神経ペプチドPACAPの包括的機能解明を目指し、多くの遺伝子改変技術・動物を駆使しながら研究を進めています。本プログラムの支援の下、国際共著論文が採択となり、またWaschek博士の日本への招へいが実現され、国際共同研究も開始するなど、非常に有意義な研究生活となっています。当ラボでは週に1回のミーティングがあり、2ヶ月に1回の割合で自分のデータ発表の機会が回ってきます。実験の成果の有無に関わらず、しっかりと発表することが求められます。プレゼンテーションを通して自己の成果や考えを主張することが非常に重要であると感じます。UCLAでは専門技術・専門の機器等を扱うコアファシリティとよばれる施設が多く存在します。自身のラボには無い、あるいは経験の無い技術や機械でも、共同研究あるいは有償（安価）の形で実験を進めることが容易で研究の幅が広がっています。またほぼ毎日、内外の研究者による講演が行われており、誰でも自由に参加することができます。このような機会を通じて、能動的に人材交流を進めることができる環境も大変魅力です。